

5月18日(月曜日)「エリシャ(3)王も見舞う」

【新改訳 2017】

Ⅱ 列王記 13・14－21

「エリシャが死の病をわずらっていたときのことである。イスラエルの王ヨアシュは、彼のところに下って行き、彼の上に泣き伏して、『わが父。わが父。……』と叫んだ。」(14節)

ここには、エリシャがどんな預言者であったかをうかがわせるものがあります。多くの場合、預言者は王や高位にある者と対決しました。エリシャは、イスラエルの王ヨアシュの見舞いを受けています。頼りにされていたようです。師エリヤとは対照的です。

エリシャの活躍については、列王記に18のエピソードがあると言われます。名もないやもめのための奇跡から、国家の将来を左右する重要な軍事的出来事に至るまで幅広いものでした(『新約聖書辞典』)。

エリヤとエリシャは、特別な力を与えられたカリスマ的存在でしたが、その後は神からのことばを語る事が中心になっています。神は、その時々に応じてふさわしい人物を起こし、ふさわしい仕方で用いられることを教えられます。

～祈り～

主よ。あなたは、時と状況に応じて人を起こし、用いられることを覚え、
恐れつつも感謝いたします。どうか、分に応じて、ふさわしくお用い頂け
るものにしてください。

【学びのために】

ヨアシュ王:ヨアシュ王は、ダビデ王朝第 9 代の南王国ユダの王。7 歳で
王となり、約 40 年間(BC837-800)治めました。II 歴代 24 章参照。